

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年 5月22日

栃木県知事
福田 富一 様

提出者

住 所 栃木県佐野市栄町4番地

氏 名 ハウス食品株式会社

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

関東工場長

電話番号 0283-23-2311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ハウス食品株式会社 関東工場
事業場の所在地	栃木県佐野市栄町4番地
計画期間	令和5年(2023年)4月1日 ~ 令和6年(2024年)3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	食料品製造業・その他の食料品製造業・他に分類されない食料品製造業 [0999]
②事業の規模	製品出荷額 350億円/年(令和5年4月1日~令和6年3月31日)
③従業員数	313人(令和5年4月3日現在)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙2のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排出量	別紙3のとおり	t
	(これまでに実施した取組)		
別紙4のとおり			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排出量	別紙3のとおり	t
	(今後実施する予定の取組)		
別紙4のとおり			
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙4のとおり		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙4のとおり		

(第3面)

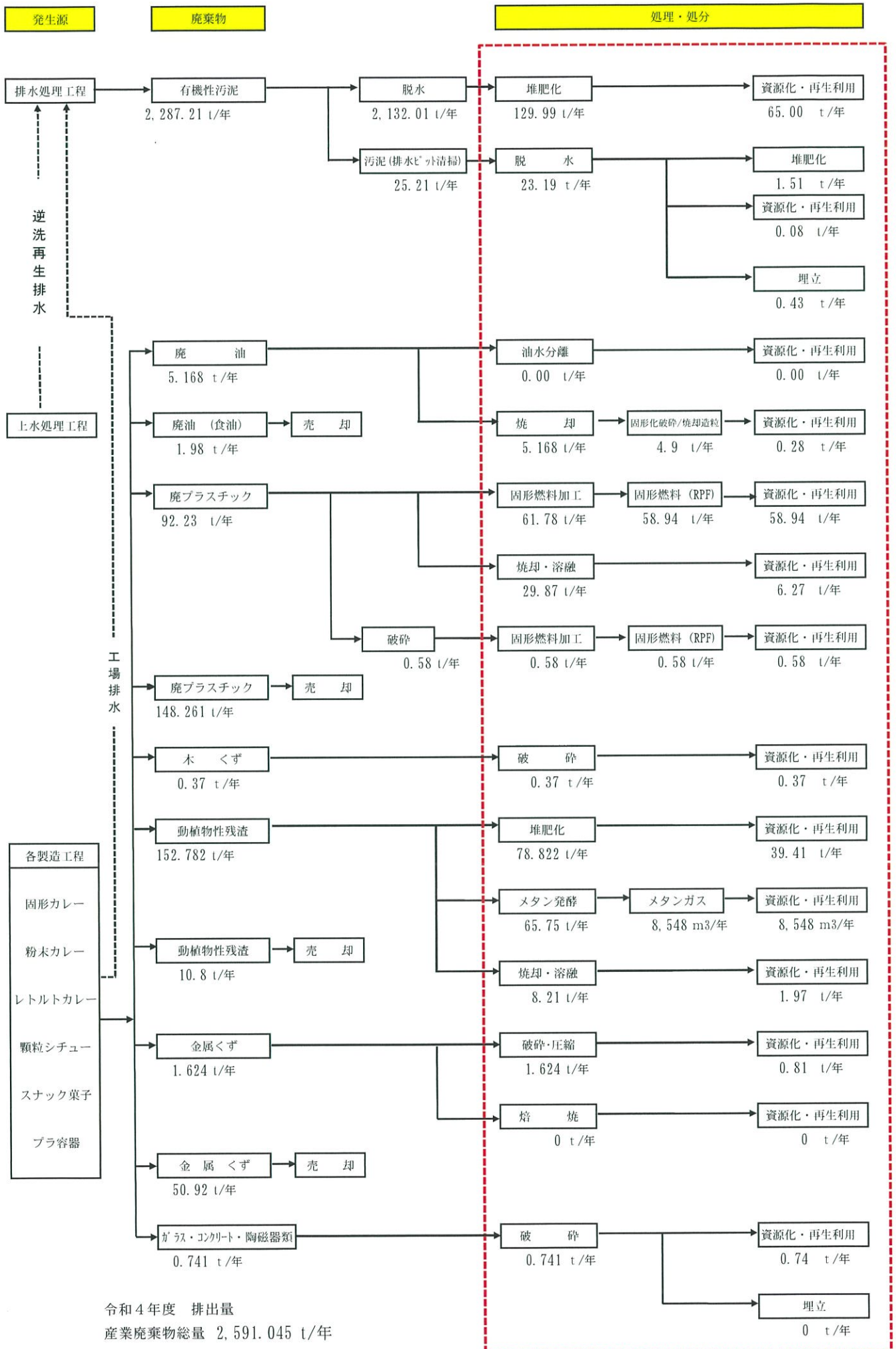
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4のとおり		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
(今後実施する予定の取組) 別紙4のとおり			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	別紙3のとおり	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4のとおり		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全処理委託量	別紙3のとおり	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	再生利用業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	別紙3のとおり	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4のとおり		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全処理委託量	別紙3のとおり	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙3のとおり	t
	再生利用業者への 処理委託量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	別紙3のとおり	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	別紙3のとおり	t
	(今後実施する予定の取組)		
別紙4のとおり			
※事務処理欄			

備考

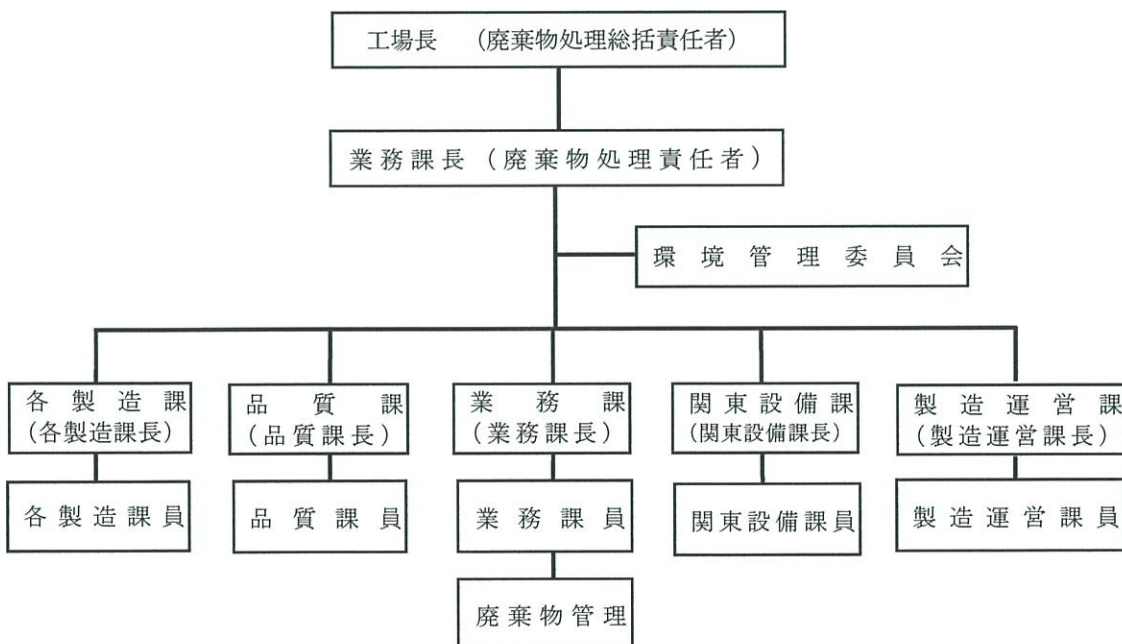
- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。



責任者及び管理組織図

総括責任者	所 属 : 関東工場	職・氏名 : 工場長
処理責任者	所 属 : 関東工場業務課	職・氏名 : 業務課長
廃棄物担当	組織名 : 業務課 組織人数 : 11人	職・氏名 : 業務課長
役	工場環境管理委員会	○IS014001システムに関する検討 廃棄物を含む環境管理システム全般の検討をする。 ・委員長 - 工場長 ・環境管理責任者 - 関東設備課長 ・委員 - 11人 (委員長含む) ・事務局 - 関東設備課員
	廃棄物処理総括責任者	○廃棄物処理方針の策定 ○廃棄物処理に関する各種事項の決定・承認 ○工場の廃棄物管理規定の策定・改廃
割	廃棄物管理担当課長 (業務課長)	○廃棄物処理計画の作成 ○廃棄物管理及び状況把握と改善策の検討 ○処理業者、再生利用業者の調査、選定及び管理 ○委託契約の締結 ○産業廃棄物管理標の交付・管理 ○監督官庁への各種報告 ○社員、関連会社に対する教育・啓発 ○その他関係する事項

廃 棄 物 管 理 組 織



廃棄物の種類及び 実績、目標の別 排出・処理 の区分	汚泥		廃油		廃プラスチック類		木くず		動植物性残渣	
	実績 [t] (令和4年度)	計画 [t] (令和5年度)	実績 [t] (令和4年度)	計画 [t] (令和5年度)	実績 [t] (令和4年度)	計画 [t] (令和5年度)	実績 [t] (令和4年度)	計画 [t] (令和5年度)	実績 [t] (令和4年度)	計画 [t] (令和5年度)
排出量	2287.21	2264.34	5.168	5.12	92.23	91.31	0.37	0.36	152.782	151.25
自己再生利用量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己熟回収量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己中間処理減量化量	2132.01	2110.69	0	0	0	0	0	0	0	0
自己埋立処分又は海洋 投入処分量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全処理委託量	155.2	153.6	5.168	5.12	92.23	91.31	0.37	0.36	152.782	151.25
優良認定処理業者への 処理委託量	25.21	25.0	5.168	5.12	61.78	61.16	0.37	0.36	0	0
再生利用業者への処理 委託量	155.2	153.6	0	0	62.36	61.74	0.37	0.36	152.782	151.25
認定熟回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	29.87	29.57	0	0	0	0
認定熟回収業者以外 の熟回収を行う業者 への処理委託量	0	0	5.168	5.12	0	0	0	0	0	0

廃棄物の種類及び 実績、目標の別 排出・処理 の区分	金属くず		ガラスくず、コンクリート くず、及び陶磁器くず							
	実績 [t] (令和4年度)	計画 [t] (令和5年度)	実績 [t] (令和4年度)	計画 [t] (令和5年度)						
排出量	1.624	1.61	0.741	0.73						
自己再生利用量	0	0	0	0						
自己熟回収量	0	0	0	0						
自己中間処理減量化量	0	0	0	0						
自己埋立処分又は海洋 投入処分量	0	0	0	0						
全処理委託量	1.624	1.61	0.741	0.73						
優良認定処理業者への 処理委託量	0.024	0.023	0.741	0.73						
再生利用業者への処理 委託量	1.624	1.61	0.741	0.73						
認定熟回収業者への 処理委託量	0	0	0	0						
認定熟回収業者以外 の熟回収を行う業者 への処理委託量	0	0	0	0						

＜産業廃棄物の排出の抑制に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
汚泥	<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥含水率1%低減による汚泥払出し量削減 ・RF充填機不良排出低減による発生量削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・OZ排水ピット内の食油を抜取り有価売却することで汚泥発生量を削減する
廃油	<ul style="list-style-type: none"> ・食油検査回数の見直しによる廃棄量削減 ・AV測定試薬変更による試薬廃棄物削減 	
廃プラスチック類	<ul style="list-style-type: none"> ・ST1kgカトン糊付チェック見直しによる廃棄物削減 ・RF充填抜取りチェック頻度見直しによる廃棄物削減 ・CRケーサースタート前チェック方法変更によるPCロス削減 ・LC週末まとめ生産による包材ロス削減 ・CRBライン外装別添えレ検出変更による廃棄物削減 ・CR第一仕掛品転用率変更による廃棄物削減 ・LC定量供給機揺出しロス減少による廃棄物削減 ・品質課検査頻度低減による廃棄物削減 ・OZリニューアルBAFの小物ポリ袋サイズ変更で重量50%低減 ・ST包装SIG量目チェック頻度の見直しによる廃棄物削減 ・GF整粒金検コンベア顆粒飛散防止での廃棄物削減 ・PF包装チョコ停改善による包材ロス削減 ・RFケーサ-製函機制御変更による包材廃棄ロス削減 	<ul style="list-style-type: none"> ・LCカーパウダークラフト袋再利用による廃棄物削減 ・RF包装ピロー機排出改善によるパワリ廃棄ロス削減 ・CRカトンフリップなし検出確認制御変更による廃棄物削減 ・OZケーサースタートロール両サイド切れ端廃棄物削減 ・RF原料容器蓋を洗浄分別することでの廃棄物削減 ・原料用プラ容器の「有価売却による廃棄物削減
木くず	—	—
動植物性残渣	<ul style="list-style-type: none"> ・LC粉体種切替回収ロス削減による廃棄物削減 ・ST定量供給機揺き出しロスの削減 ・OZ粉体工程リサイクル原料の削減 ・GF製造稼働時の検査サンプル量削減 ・CRコンソングクッションパッドF再利用による廃棄物削減 ・OZ停止時エンローバー出口抜取統一で廃棄物削減 ・CRカフェルG種配合処理見直しで廃棄ロス削減 ・LC充填機スタート時排出数減少による廃棄物削減 ・ST3次反転機集塵原料リサイクルによる廃棄物削減 ・GFカーうどん端数パッチ設定による廃棄物削減 ・RF充填機パッチ不良排出改善による廃棄物削減 ・LC仕掛品転用見直しによる廃棄物削減 ・PF家庭用水中チェック原料リサイクル化による廃棄物削減 ・品質課スタート時粘度測定廃止によるサンプルリング数削減 ・品質課PF家庭用保存品・コントロールサンプルリング数削減 	
金属くず	—	—
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器類	—	—

＜産業廃棄物の分別に関する事項＞

	分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組	今後実施する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組
汚泥	<ul style="list-style-type: none"> ・工場共通ルール「TS-業務-0020廃棄物分別処理の運用方法」に従い指定保管場所に分別保管する。 ・全プラントの原料袋有価売却による産業廃棄物削減（2019年6月～） ・金属混合物を分別して金属くずとして有価売却。 	
廃油		排水処理前の油ピット層内食油を抜取り有価売却する。
廃プラスチック類		原料容器（蓋）を有価売却する。 弱アルカリ洗浄剤容器を内部洗浄して有価売却する。
木くず		
動植物性残渣		固化する液体原料は固めてポリ袋1枚で廃棄（今までは2枚使用）
金属くず		原料用容器取っ手金属部を鉄くずとして有価売却
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器類		ガラス瓶を分別して専ら物再生処理業者に委託

＜自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
汚泥	※全量を委託処理しているので該当しない。	※全量を委託処理しているので該当しない。
廃油		
廃プラスチック類		
木くず		
動植物性残渣		
金属くず		
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器類		

＜自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項＞

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
汚泥	・油分解槽自己消化促進による汚泥発生量削減 ・汚泥含水率1%低減による汚泥払出し量削減	—
廃油	—	—
廃プラスチック類	—	—
木くず	—	—
動植物性残渣	—	—
金属くず	—	—
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器類	—	—

<自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項>

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
汚泥	※全量を委託処理しているので該当しない。	※全量を委託処理しているので該当しない。
廃油		
廃プラスチック類		
木くず		
動植物性残渣		
金属くず		
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器類		

<産業廃棄物の処理の委託に関する事項>

	これまでに実施した取組	今後実施する予定の取組
汚泥	<ul style="list-style-type: none"> ・有機性汚泥は発酵堆肥化処理し肥料として販売している業者へ委託する。 ・無機汚泥は油水分離後焼却。残渣（焼却灰等の最終処分先）を再生砂等の製造販売業者へ委託している業者に委託する。 	同 左
廃油	<ul style="list-style-type: none"> ・再生処理業者へ委託する。 ・再生出来ない物は、焼却（サマルサイト）処理業者に委託。残渣（焼却灰等の最終処分先）を再生砂等の製造販売業者へ委託している業者へ委託する。 	同 左
廃プラスチック類	<ul style="list-style-type: none"> ・RPF固形燃料化に加工して販売している業者に委託又は、有価物買取業者へ販売する。 ・焼却するものは、熱回収している設備で焼却後溶融しスラグ等を製品として販売している業者へ委託する。 	同 左
木くず	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎（チップ化）し、バイオ発電燃料として売却している。再利用業者へ委託処理する。 	同 左
動植物性残渣	<ul style="list-style-type: none"> ・発酵堆肥化処理し肥料として販売している業者（2社）へ委託する。 ・タン発酵施設でエネルギー回収、残渣を再利用化している業者へ委託する。 	同 左
金属くず	<ul style="list-style-type: none"> ・販売できる業者へ委託処理する。 	同 左
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器類	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎処理後、再生原料にしている業者へ処理を委託する。 ・埋立が発生する場合は、最終処分先が安定型埋立処分先へ委託している業者へ依頼する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガラス瓶は分別して廃棄物（専ら物）再生処理業者の委託する。